

令和5年度参考資料 (生涯学習課、教育研究所)

<頁>

1	令和5年度スクールガード配置事業実施結果	1
2	令和5年度スクールガード配置事業アンケート集計結果	3
3	令和5年度学校支援事業実施結果	9
4	令和5年度「地域コーディネーター交流会(第2回)」実施結果	11
5	令和5年度「図書支援活動地域ボランティア研修会」実施結果	14
6	令和5年度学校運営協議会と地域学校協働活動の推進事業実施結果	17
7	地域学校協働活動に係る新聞記事	19

1 令和5年度スクールガード配置事業実施結果

令和5年度スクールガード配置事業実施結果

スクールガード配置状況一覧表（令和5年1月31日現在）

学校名	人数（人）		合計活動時間 （4月～1月分）	月平均活動時間 （1人あたり）	備考
	R5	前年度比			
盛小学校	4	▲2	215時間15分	5時間22分	1人謝金辞退
大船渡小学校	4	—	1234時間00分	30時間51分	
末崎小学校	3	—	213時間30分	7時間07分	
赤崎小学校	2	—	674時間00分	33時間42分	
猪川小学校	1	—	183時間00分	18時間18分	
立根小学校	2	—	604時間30分	30時間12分	
日頃市小学校	3	2	591時間30分	19時間43分	
大船渡北小学校	5	1	750時間00分	15時間00分	
綾里小学校	3	—	593時間15分	19時間46分	
越喜来小学校	0	—	—	—	
吉浜小学校	10	3	182時間45分	1時間49分	1人謝金辞退
第一中学校	0	—	—	—	
大船渡中学校	3	—	133時間45分	11時間09分	10月から活動開始
末崎中学校	0	—	—	—	
東朋中学校	0	—	—	—	
合計	40	4	5375時間30分	13時間26分	

スクールガード：11校に40人配置

- ① 引率型：盛小4人、大船渡小4人、末崎小2人、大船渡北小5人、綾里小3人、吉浜小10人
- ② 通学路巡回型：末崎小1人、赤崎小1人、猪川小1人、立根小2人、日頃市小3人、大船渡中3人
- ③ スクールバス添乗型：赤崎小1人

スクールガード実施状況写真



- ▶ 大船渡小学校
引率型スクールガード



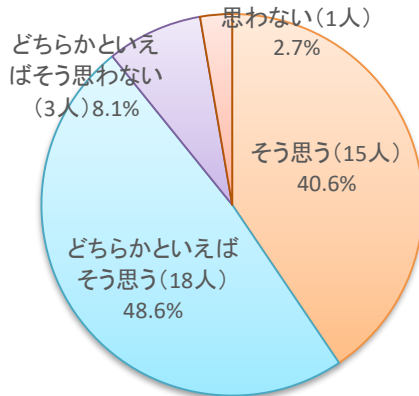
- ▶ 赤崎小学校
添乗型スクールガード

2 令和5年度スクールガード配置事業アンケート集計結果

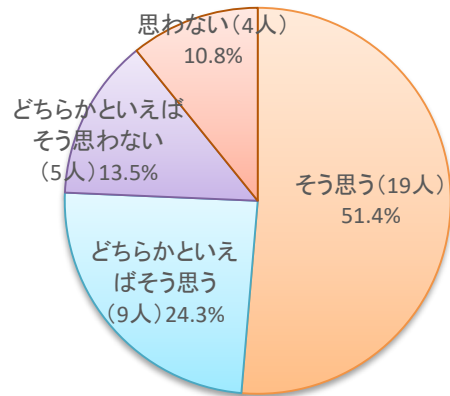
1 アンケート集計結果（スクールガード）

調査対象者：スクールガード（40人）
回収率：92.5%（37人）

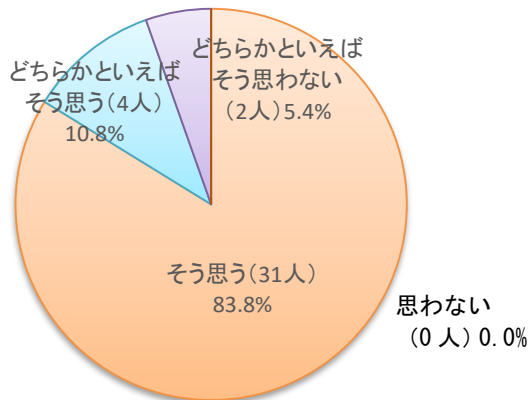
Q1 SG活動は生きがいや楽しみか



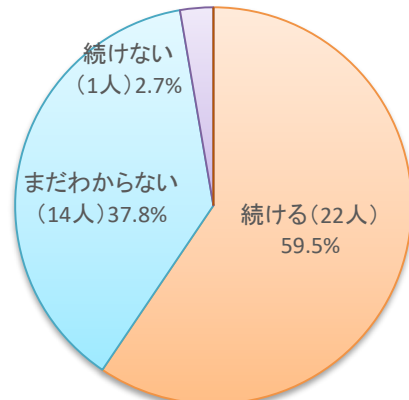
Q2 SG活動によって知り合いが増えたか



Q3 地域ぐるみでの活動は必要か



Q4 来年度以降もSG活動の継続を望むか



SG活動が生きがいや楽しみとなっていると答えた方が89.2%（昨年度82.3%）であり、自由記載においても、楽しみながら責任感をもって活動している様子が見える。

SGを「続ける」と答えた方は59.5%（昨年度45.5%）となり、昨年度と比較して増加したが、「まだわからない」と答えた方も約4割いることから、いかに「まだわからない」と答えた方に続けてもらうかが今後の事業継続を左右する。

今年度、新規SG登録者は10人で、現役世代（新規SG登録者の平均年齢：51.3歳、その他SGの平均年齢：69.5歳）のSGを確保できたことが成果だ。今後も、地域住民や保護者等の幅広い参画を今後も求めていく必要がある。

Q5 自由記載 抜粋

【あいさつについて】

- ・朝のあいさつを元気よくするので、生き生きと感じるし、とても良くなったと思います。(赤小)
- ・あいさつを返してくれる子ども、話しかけてくれる子どもが多くなった。(猪小)
- ・あいさつはよくするが、こちらから声をかけてからの方が多と思う。(日小)
- ・自分の方から先にあいさつしようとする様子が多く見られるようになった。表情や声に明るさや張りを感じるようになった。こちらの存在に慣れてくれているようで嬉しく思う。(綾小)

【登下校の様子】

- ・小学1年生は、日々、行動がどんどん激しくなり、活発な毎日を送っています。SGが注意してもなかなか言うことを聞きませんが、毎日、細心の注意を払っています。1人1人が個性的でかわいいです。SGに生きがいを感じております。(大小)
- ・集団を意識して行動できるように成長しており、リーダーの指示を素直も聞けるようになってきたが、登校班によって、きちんと列をつくって歩ける班とそうでない班の差が大きい。(末小)
- ・子どもたちは、横断歩道を渡る前に一旦止まって安全確認をしています。私は自分の目での安全確認が大事ということ伝えていきます。キラキラした目で元気よくあいさつする姿がとてもかわいいです。(北小)
- ・話しや遊びに夢中になって道路にとびだすこともある(低学年)。もしSGがついていなかったらと考えると怖いです。毎朝一緒に学校に行くので、名前で呼んでくれたり、大人も仲良くなって楽しいです。(吉小)
- ・通学路巡回型の見守りを実施しております。冬期間の下校時は暗く、車の迎えも多く感じます。市街地は車や人通りも多く、商店や外灯などの明かりもありますが、主要道以外の県道・市道等枝葉の道路は外灯も少なく、少人数あるいは1人での帰途に心して巡回しております。生徒数の減少なのか、寒い時期でもあるのか、以前見られた数名での立ち話もなく、特に心配と思われる行動は見かけません。(大中)

【良かったこと】

- ・子どもたちがよく挨拶してくれるようになり、学校外でも「スクールガード」のおじさんと言って声をかけてくれます。また、活動を通じて親子さんたちの顔も知ることができた。(大小)
- ・地域のちょっとした変化に気づき、こちらに伝えたりする子もいる。(綾小)
- ・学校内外の児童たちの活動の様子を知ることができ、その中で成長の様子を感じられる。(吉小)
- ・日々の子どもの様子や体調面など、話の中から子どもたちの現状を知る機会になっていると思います。危険な部分などいち早く気づけるのは大事。(吉小)
- ・特に低学年にとって体力の強化につながっている。忍耐力が身につく、簡単にあきらめることが少なくなったように感じる。(吉小)

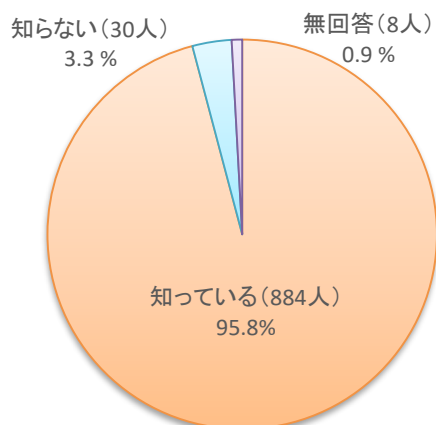
2 アンケート結果（スクールガード配置校の児童・生徒の保護者）

調査対象者：スクールガード配置校の児童・生徒の保護者（1,390人）

回収率：92.5%（1,167人/1,390人）

※ 1,167人は延べ人数のため、実質922家族からの回答

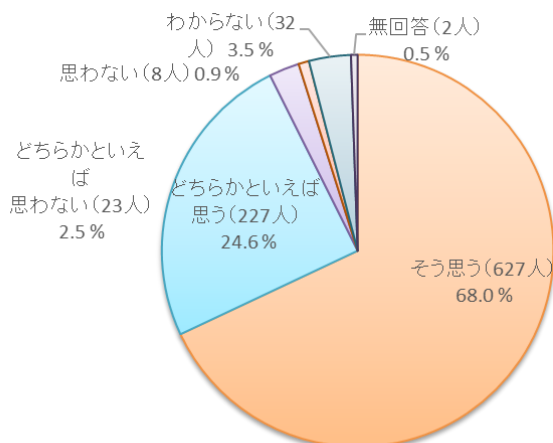
Q1 お子さんが通う学校にSGが配置されていることを知っているか



校名	知っている		知らない		無回答		計
	人	%	人	%	人	%	
盛小	82	97.6	2	2.4	0	0.0	84
大小	82	98.8	0	0.0	1	1.2	83
末小	91	96.8	3	3.2	0	0.0	94
赤小	67	89.3	7	9.3	1	1.3	75
猪小	150	97.4	4	2.6	0	0.0	154
立小	130	94.9	4	2.9	3	1.3	137
日小	37	100.0	0	0.0	0	0.0	37
北小	75	100.0	0	0.0	0	2.2	75
綾小	42	95.5	0	0.0	2	0.0	44
吉小	30	100.0	0	0.0	0	4.5	30
大中	98	89.9	10	9.2	1	0.9	109
計	884	95.8	30	3.3	8	0.9	922

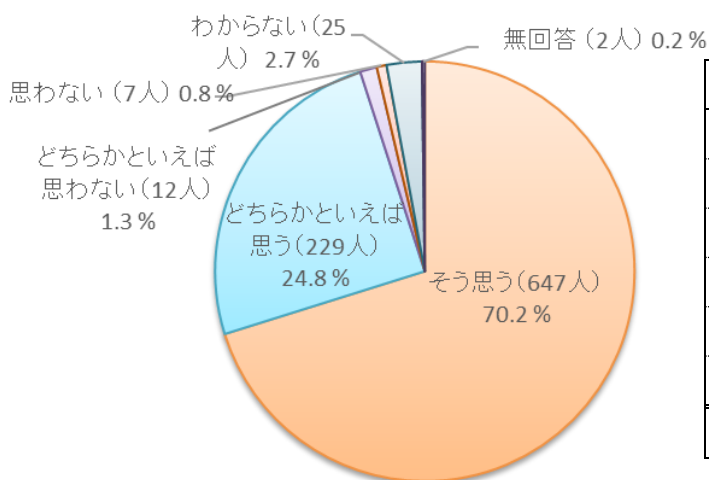
「知らない」と答えた保護者は、主に赤崎小学校と大船渡中学校である。赤崎小学校については、2人のスクールガードのうち1人がスクールバス添乗型であることから、保護者の目に触れにくいことが考えられる。大船渡中学校については、10月開始であることと、活動時間が部活動終了後の夜間であることで、目立ちにくいということが考えられる。

Q2 SGの配置により、登下校時の安全が保たれていると思うか



回答	人	%
そう思う	627	68.0
どちらかといえば思う	227	24.6
どちらかといえば思わない	23	2.5
思わない	8	0.9
わからない	32	3.5
無回答	5	0.5
計	922	100.0

Q3 SG活動の継続を希望するか

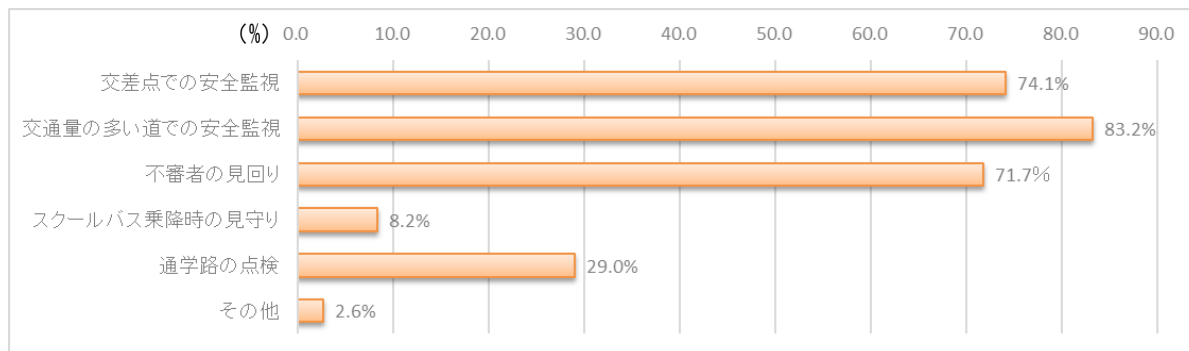


回答	人	%
そう思う	647	70.2
どちらかといえば思う	229	24.8
どちらかといえば思わない	12	1.3
思わない	7	0.8
わからない	25	2.7
無回答	2	0.2
計	922	100.0

回答者の95%（昨年度95%）が今後も事業継続を求めているが、何かあった際に動ける体力のあるSGの増員を求める声、熊の出没が多発していることから、児童・生徒だけでなくSGの身を案じる声が例年よりも多かった。

「わからない」と回答した方は、Q1でSGの配置について認知しておらず、Q2で登下校の安全が確保できているか「わからない」と答えた方が多かった。

Q4 お子さんが通う学校で必要だと思うSG活動は何か（複数回答可）



「交通量の多い道での安全監視」が多く、どの学校でも、朝、通勤により交通量が多くなることや、通学路でスピードを出す車が気になるという声が多かった。

その他、「熊」、「登校班への付き添い」、「人目が少ない道の見守り」、「あいさつ習慣」、「地域交流」等を望む声があった。

回答	回答数	%	順位
交差点での安全監視	683	74.1	2
交通量の多い道での安全監視	767	83.2	1
不審者の見回り	661	71.7	3
通学路の点検	76	8.2	5
スクールバス乗降時の見守り	267	29.0	4
その他	24	2.6	6
回答総数	2478	—	—

※（回答数）/（回答人数922人）の割合

Q5 自由記載 抜粋

【良かったこと】

- ・熊対策で、鈴をつけているSGさんを見かけました。見ている側もすごく安心します。明るく元気のいい方ばかりで、本当に頼もしいです。(盛小)
- ・よく子どもたちのことを見ていてくださり、挨拶してくださるのはもちろん、草むしりやゴミひろいなど環境美化に努めて下さり、いつもピカピカの通学路です! (盛小)
- ・働く親が多くいるなかで、地域の方々がこうしてサポートしてくれるととても助かります。笑顔であいさつを交わしている姿を見ると優しい方々だなと思います。(大小)
- ・子どもたちが毎日「新道路」を通学できるのはSGさんのおかげです。安全に学校に通えるよう優しく見守りながら、交通指導していただき、本当に感謝です。(末小)
- ・横断歩道を渡る際、子どもたちの判断では心配なので、誘導があり、助かります。(赤小)
- ・通学路での安全確認はもちろん、学校以外での挨拶する機会にもなり、保護者としてとてもありがたく思っています。(猪小)
- ・最近では不審者の他にも熊の出没等もあり、交通以外の心配事も増える中で、SGの活動は親としてとてもありがたいです。(立小)
- ・SGが増員され、安心して登校させることができます。(日小)
- ・SGさんと話をしながら帰ってきてくれたことがあります、とてもありがたく感じました。将来子育てが一段落ついた時は、SGをしたいと思っています。(北小)
- ・SGの方が登下校にいてだけで、運転手が「子どもが歩いている」、「もしかして飛びだしてくるかも」と意識をして、安全運転につながると思います。(北小)
- ・子どもが地域の方と少しでも交流できるので、コミュニケーションをとる習慣にもなって、とてもありがたいです。(綾小)
- ・冬場はとくに日没も早く、校舎や外灯の明るさも皆無のなか、真っ暗の中を歩いてくる子どもたち。近くの駐車場までずっと真っ暗。かと言って、校舎の方へは車の乗り入れは禁止と言われる。そんな中、校門わきで毎日立ち、見守って下さるSGさんの存在の心強さといったら…!!本当にありがたいです。(大中)
- ・SGさんのおかげで安全に登下校ができ、感謝しております。時々、子どもが「今日スクールガードさんと話した。声を掛けてくれて嬉しかった」と話しています。安全のみならず、見守ってくださる存在として、子どもたちを支えて下さり、心の安定も保たれているのでは、と感じます。(大中)

【要望】

- ・注意の仕方、言い方がもう少し優しくしてもらいたい。特に1年生に対しては、あたたかく声がけすべきではないでしょうか。歩くスピードも子どもにあわせてほしい。(大小)
- ・車でゆっくり見回りをしていますが、意味はあるのでしょうか。いざという時に対

応できないと思います。30 km制限の道を 15~20 kmくらいで走るのは他の車にも迷惑をかけるので、子どもたちが通る危険な道やクマが出没する可能性がある場所を監視していただくと、より安全だと思います。これからの活動もどうぞ気をつけて、安全をお願いします。(立小)

- SGは必要だとは思いますが、ある程度の若さがないといざ危険が迫った時の迅速な対応が難しくなると思います。子どもたちの方が走ると速い、頭が回るでは本末転倒だと思って見えています。
- 朝は比較的、周りの目がありますが、夕方や冬の下校時の暗くなった時に見守ってくれるSGさんが増えてくれるといいなと思います。(盛小)
- 永浜・大立地区は、歩く距離が長く、交通量も多い道が通学路ですが、SGが配置されていません。永浜・大立地区にもSGがいれば安心なのですが…。(赤小)
- 毎日の見守りってすごいことだと思います。感謝を伝える場、交流する場がもっとあったらいいなと思います。(猪小)
- 1人で下校する際、途中まで一緒に歩いてきてくださるのでとても安心です。とぼしてくる車が多いので交差点や横断歩道にはSGさんがいてくれた方が良いです。(綾小)
- SGの募集を地域全体にすべきだと思う。保護者はほとんどの人が仕事をしていてSGにつくことが厳しい。熊出没が多い地域は特に人数を増やすなど対策強化してほしい！！(吉小)

2 令和5年度学校支援事業実施結果

令和5年度学校支援事業実施結果

地域コーディネーター配置状況一覧表【令和5年1月31日現在】

(単位：人)

学校名	地域コーディネーター		合計活動時間 (4～1月分)	月平均活動時間	備考
	R5	前年度比			
盛小学校	1	1	7時間00分	0時間42分	
大船渡小学校	1	1	18時間00分	1時間48分	
末崎小学校	1	—	3時間30分	0時間21分	
赤崎小学校	1	—	10時間00分	1時間00分	
猪川小学校	0	—	—	—	
立根小学校	1	—	5時間45分	0時間34分	
日頃市小学校	1	—	25時間15分	2時間31分	
大船渡北小学校	1	—	6時間00分	0時間51分	7月から活動開始
綾里小学校	1	1	2時間00分	0時間12分	
越喜来小学校	1	1	19時間45分	1時間58分	
吉浜小学校	1	—	1時間00分	0時間06分	
第一中学校	0	—	—	—	
大船渡中学校	0	—	—	—	
末崎中学校	0	—	—	—	
東朋中学校	1	—	4時間00分	0時間24分	
生涯学習課	1	—	13時間00分	1時間18分	
合計	12	4	115時間15分	0時間57分	

地域コーディネーター：11校に9人配置、生涯学習課に1人配置

配置校：盛小、大船渡小、末崎小、赤崎小、立根小、日頃市小、大船渡北小、綾里小、越喜来小、吉浜小、東朋中

※ 複数校を兼務する地域コーディネーターがいるため、総数と異なる。

※ 地域コーディネーター登録者数：9人

地域ボランティア配置状況一覧表【令和5年1月31日現在】

(単位：人)

学校名	図書支援ボランティア		金管支援ボランティア		合計活動時間 (4～1月分)	月平均活動時間 (1人あたり)	備考
	R5	前年度比	R5	前年度比			
盛小学校	1	—	2	—	87 時間 00 分	2 時間 54 分	2 人謝金辞退
大船渡小学校	2	—	0	—	23 時間 30 分	1 時間 10 分	
末崎小学校	0	—	0	—	—	—	
赤崎小学校	2	—	0	—	97 時間 45 分	4 時間 53 分	
猪川小学校	4	—	0	—	269 時間 00 分	6 時間 43 分	
立根小学校	2	1	0	—	192 時間 30 分	9 時間 37 分	
日頃市小学校	2	2	0	—	14 時間 00 分	1 時間 24 分	9 月から活動開始
大船渡北小学校	4	—	0	—	520 時間 15 分	13 時間 01 分	
綾里小学校	3	3	0	—	446 時間 00 分	14 時間 52 分	
越喜来小学校	2	—	0	—	134 時間 45 分	6 時間 44 分	1 人謝金辞退
吉浜小学校	1	—	0	—	91 時間 15 分	9 時間 07 分	
第一中学校	4	—	0	—	240 時間 45 分	6 時間 01 分	
大船渡中学校	4	—	0	—	301 時間 00 分	7 時間 31 分	
末崎中学校	3	—	0	—	251 時間 30 分	8 時間 22 分	
東朋中学校	2	—	0	—	42 時間 30 分	2 時間 07 分	
合 計	36	6	2	—	2711 時間 45 分	7 時間 31 分	

地域ボランティア

① 図書支援活動地域ボランティア：14校に15人配置

配置校：盛小1人、大船渡小2人、赤崎小2人、猪川小4人、立根小2人、
日頃市小2人、大船渡北小4人、綾里小3人、越喜来小2人、吉浜小1人、
第一中4人、大船渡中4人、末崎中3人、東朋中2人
※ 複数校兼務するボランティアがいるため、総数と異なる。

② 金管支援活動地域ボランティア：盛小に2人配置

令和5年度大船渡市学校支援事業
「地域コーディネーター交流会（第2回）」実施結果

日時	令和6年2月15日（木） 午後2時～3時
場所	大船渡市役所 教育委員会会議室
参加者	地域コーディネーター：5人 沿岸南部教育事務所 佐々木済通 氏

1 趣 旨

大船渡市の地域学校協働本部事業実施にあたり、各校で活動している地域コーディネーター（以下、「地域C」という。）が、各校での取組・課題について情報共有することで、市内のネットワークの構築及び地域学校協働活動のより一層の充実を図る。

2 内 容

「令和5年度の活動の所感」について1人ずつ発表した。

【令和5年度の所感】抜粋

- ・令和5年度は公民館との繋がりを持てたことが成果だ。サポートの輪が広まったのは「昔遊び」。ひころいち町まちづくり推進委員会の主事が協力的で、竹とんぼを1年生全員分作ってくれた。「糸のこ」授業の際、地域の大工さん呼んだ。自分が教員時代にはこんな指導はできなかったと思い、地域の力を感じた。（日小）
- ・「椿学習」などの学習をサポートした。また、総合・生活・特別活動の時間を整理し、学校にどんな学習をしたいのか投げかけながら「学校が地域にある」という意識付けをした。地域にとって、学校行事に関わることはハードルが高いようなので、上手く繋げていきたい。子どもたちも色んな方々との交流を楽しみにしている。（大小・北小）
- ・学校の要望に応えてくれるボランティアの名簿を作成し、学校に提供した。また、用務員さんだけではグラウンド周辺の草刈りが大変なので、地域の方に手伝ってもらった。正直、令和5年度は何もできないまま過ぎた印象。（末小）
- ・自分は週に1回学校に行き、学校の要望を聞いているが、それを他の地域が目標にすることは無いと思う。それぞれの地域に目標があって、それを淡々とやるべき。自分は学校と子どもたちの橋渡しで、学校に困ったことがあったら、ジャマにならないように陰でコソッと動きたい。（越小）
- ・自分の地域は「学校は地域とともに」という意識が強く、既に、この時期はこの人、この行事はこの人に頼む…という具合に、学校支援の土壌ができています。令和6年度は、学校行事にできるだけ参加することが目標だ。子どもや地域の方々と会話し、写真を撮るなどボランティアもしたい。（綾小）

- ② 令和5年度の所感を発表後は、フリートークの時間とした。

【地域Cの活動について】抜粋

- ・ミシンの授業で1台糸がからまると、先生は直す方に集中して他の生徒の指導がおろそかになるため、ミシン指導の他に、機械修理のボランティアを頼まれた。(越小)
- ・先生がやるべきこと、やらなくていいこと、それぞれある。子どもの数が減少してもやるべきことは増えている。授業には、効率性と1人ひとりの平等性が求められるため、地域の方々の協力は必要。(大小・北小)
- ・指導の中身も変化してきている。例えば、自分だったら子どもたちに「どう本を読ませるか」を考えるが、先日、ある先生から「タブレットを与えれば大丈夫」と言われた。自分で本を読むことのメリットを整理せず、タブレットをただ与えることが教育なのか。地域を支えていく大人に成長できるのか疑問に思う。(大小・北小)
- ・学校との関係が近く、自然な形で学校に入れるのがベストだと思う。(綾小)
- ・仕事はどんどん人に振っていった方が良いと思う。自分は学校運営協議会長にかなり頼っている。自分が人を知っていなくても会長が知っているため、依頼する前に会長からその人に一声をかけてもらったりする。(日小)
- ・3月にバスを借りて6年生だけを対象に遠足に行くことになった。これは、小学6年生の子たちが自分たちで頼んできたことだ。子どもたちの「やりたい」を実現することが1番大事なことだと思う。(越小)
- ・コミュニティ・スクールに係る研修会に参加すると、他自治体の素晴らしい実践例が発表される。資料には「学校の応援団」と書かれており、何か積極的にやっていかなければいけないという印象を受けてしまうが、自分は仕事ではなく、地域への恩返しとしてやっている。(末小)
- ・自分達ができることをできる範囲で、学校の求めに応じて肩肘張らずに活動していくのが1番だと考える。(大小・北小)

【まとめ】

活動が2年目の地域Cと1年目の地域Cがあり、活動をとおして、自分なりのパターン（学校に行く時間、困った時の相談相手、活動内容等）が確立してきた地域Cもいた。他自治体の実践例と比較し、あまり活動できなかつたと自らを評価する地域Cもいたが、地域それぞれに特色があり、人材も異なるため、一概に「活動時間＝成果」とは評価できない。

令和5年度、大船渡市全体としては、地域Cが連絡調整等行いながら、地域の方に講師やボランティアとして授業の補助をしてもらう例が多く見られた。令和4年度と比較しても、地域Cと多くの地域の方々の協力により、市内の地域学校協働活動が推進されたと言える。

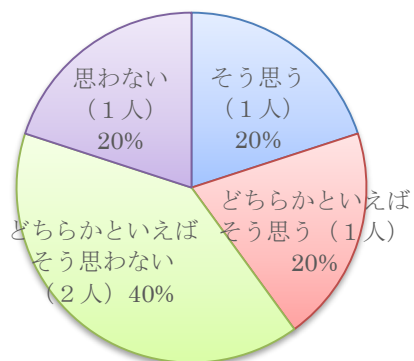
今後も、地域Cと地域住民の活動により、継続的に地域全体で子ども達の成長を支えられることが期待される。

【令和5年度地域C業務内容（抜粋）】

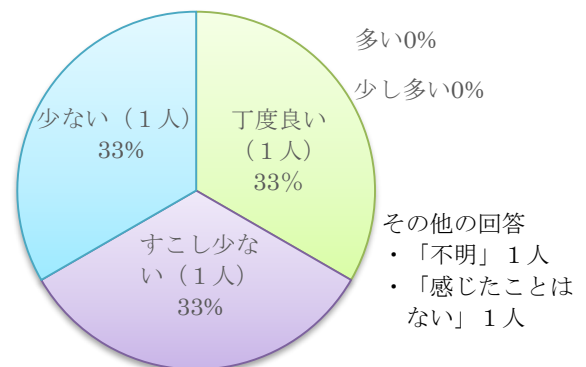
※ ボランティア募集チラシ・名簿作成、水生生物調査・調理実習・裁縫実習・昔遊びボランティアとの連絡調整、ミシン学習の補助、町あるき打合せ、小学校150周年記念行事打合せ、郷土学習講師との打合せ、ジャガイモたね植え、サツマイモ収穫等の畑作業の打合せ、潮目見学打合せ、サロン開設 等

3 アンケート結果

Q 1 活動は生きがいや楽しみか



Q 2 業務量は多いか



Q 3 自由記載

- ・ ザックバランな意見交換で雰囲気がとても良く、活発な交流会になったと思う。
- ・ 各学校の様子が聞けて良かったです。実際の活動も見てみたいです。
- ・ お互いに日常的に感じていることをざっくばらんに話し合えて良かった。難しいことを言わないで、やわらかく、やわらかく…をこれからも大切にしていきたい。
- ・ 多くの学校に参加してほしい。多くの意見を聞きたい。
- ・ 雑談で良い。地域がまとまっている所は羨ましい。

4 実施状況写真



令和5年度大船渡市学校支援事業
「図書支援活動地域ボランティア研修会」実施結果

日時	令和5年11月20日(月) 午後1時30分～3時30分
場所	大船渡市立越喜来小学校 図書室
テーマ	～児童・生徒に本を繋ぐ～
講師	大船渡市立図書館 司書 中井 佳織 氏
参加者	図書支援活動地域ボランティア：10人 図書担当教諭：1人

1 趣 旨

大船渡市の地域学校協働本部事業実施にあたり、図書支援活動地域ボランティアが専門知識を学ぶことにより、学校支援活動の充実を図る。

2 内 容

(1) 講演及び実演

大船渡市立図書館にある本を紹介しながら「蔵書を生かした図書展示のつくりかた」について講演及び実演した。

- ・牛乳パックや箱を利用した「ミニ展示」や「配架の仕方」
- ・本の表紙の面出しや季節に合わせた図書室の装飾による「図書室への促し方」
- ・優れた「ブックリストの紹介」 等



(2) 情報交流

日頃の「業務内容」、「業務の課題」、「解決策」について、ボランティア同士で話した。ボランティア1、2年目の方も数人参加し、講師やベテランのボランティアからアドバイスを受ける場面が多く見られた。時間が経つにつれ、図書室内を見学するなど、自由に情報交流した。

「子どもが読みたい
本と先生が読ませた
い本は違う…」

「他校だと選書はど
うしているか？」



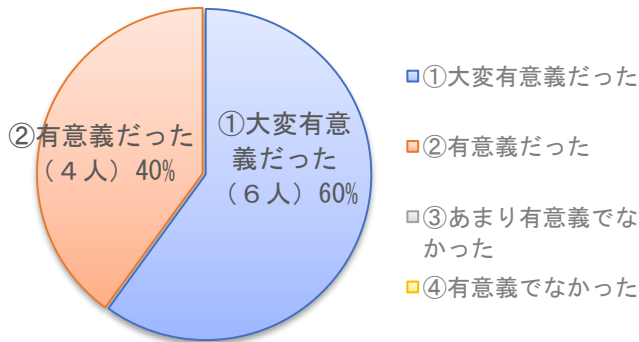
「良書でも古い本は
廃棄すべきか？」

「本の廃棄前に、必
要な作業はある
か？」 etc.

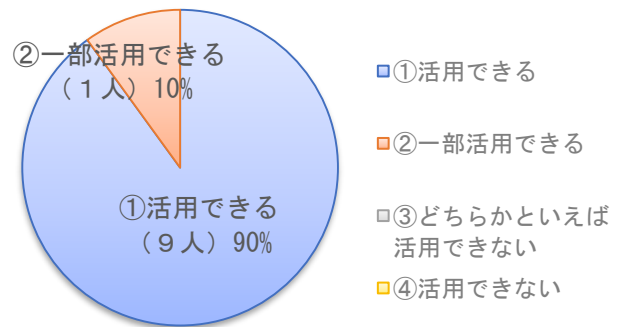
3 アンケート結果

調査対象者：研修会参加者（11人）
回収率：90.9%（10人）

Q1 研修会の評価



Q2 研修会の内容は、活用できるか



今回の研修会では、はじめて図書担当教諭も参加し、情報交流の時間を多めに割いたことで、より参加者同士での各学校の状況等の情報共有が図られた。

研修会に参加した全員が、「大変有意義であった」、「有意義であった」、「今後の活動に活用できる」、「一部活用できる」と回答した。

Q3 研修会への意見や感想（自由記載）※一部抜粋

- ・他の学校で活動をされている方々と交流できるのは、とても有意義でした。
- ・これまでの自分の選書の仕方に加え、ブックリストを参考にすることや、テーマからキーワードを広げていく方法など、具体的な展示のヒントが得られたので、今後の活動に本当に参考になる研修会でした。ありがとうございました。
- ・他校の図書室を見学し、共により良い活動ができるような研修会も良いですね。（今回のように）
- ・他の学校の図書室を見られて、並べ方、牛乳パックの活用など、参考にしたいと思いました。
- ・自分自身の読書量が少ないので、選書の際に不安でしたが、今回、中井さんにそういう本も紹介していただき大変参考になりました。できれば、自分でも実際に多くの本に触れ、内容を分かったうえで、子どもたちに勧めていけたらなと思いました。

- ・初めて研修会に参加しました。図書ボランティアさんと交流できたことがとても有意義でした。いつも助けていただいている図書ボランティアの方々とたくさんお話しできて嬉しかったです。

Q 4 研修会の内容に限らず、意見等（自由記載）※一部抜粋

- ・図書ボランティアを希望する学校が、何を図書ボランティアに求めるのかを明確にしてくださいとありがたいです。
- ・図書ボランティアを始めて間もないので、耳を傾むけることでいっぱいでした。先生方の考え方も色々あると思いますが、個人的には、一度、司書の方から見た日頃市小学校の図書室のまとめ方を提言してほしい。
- ・今回、越喜来小学校の図書担当の先生が参加してくれました。図書ボランティアの研修会に学校の先生も可能であれば参加してほしいと思っています。
- ・こういった研修会をしていただけるので、図書のことをお任せできるのだと思いました。これからもたくさん頼りにしています。ご自身も忙しい中、学校に来てくださっている皆さんに感謝です。

4 越喜来小学校での工夫



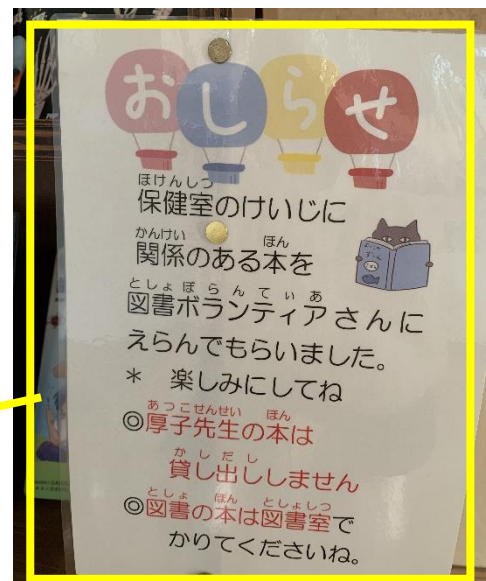
図書室の装飾



壊れた本の救急箱



保健室前の棚



令和5年度学校運営協議会と地域学校協働活動の推進状況

1 学校運営協議会の設置・運営

【実績】今年度開催された学校運営協議会（2月末現在）

No.	学校名	開催回数	No.	学校名	開催回数
1	盛小学校	2	9	綾里小学校	3
2	大船渡小学校	3	10	越喜来小学校	2
3	末崎小学校	4	11	吉浜小学校	2
4	赤崎小学校	3	12	第一中学校	2
5	猪川小学校	3	13	大船渡中学校	4
6	立根小学校	3	14	末崎中学校	2
7	日頃市小学校	3	15	東朋中学校	3
8	大船渡北小学校	4		市内15校	43

2 学校運営協議会において熟議の開催

【実績】今年度開催された熟議

学校名	熟議回数	熟議テーマ
盛小学校	1	盛町に残したいこと・児童に伝えたいこと
大船渡小学校	1	子どもたちに伝えたい地域の宝ー地域のひと・もの・ことー
末崎小学校	3	子どもたちのようすについて
猪川小学校	2	本校児童のよさと今後の課題、及び改善方策について
立根小学校	2	立根町の子どもたちに「誇り」と「夢」を育むために、私たちにできることは
日頃市小学校	1	振り返りアンケートより・意見交流
大船渡北小学校	2	子どもたちに伝えたい地域のたから
越喜来小学校	1	共通認識したいこと
第一中学校	1	地域と中学校の関わり 実施可能な協働の機会確認
大船渡中学校	1	学校と地域がいっしょにやれることは

3 熟議の事例

(1) 大船渡小学校第2回学校運営協議会の熟議

テーマ「子どもたちに伝えたい地域の宝ー地域のひと・もの・ことー」

- ・大船渡にはこれがあるというものを、子どもの頃に見せたり体験させたりする機会が多いとよい。
- ・牡蠣の養殖体験のように、毎年継続できるものがよい。ホタテ・ホヤ・ウニ剥き等もあるが、保護者をもっと巻き込んでいけば良い。

- ・担任の先生の負担になってしまうような取組になると継続していかない。その場所に行けば、あるいは講師に来ていただければ、すぐに学習できるような取組み方が良い。

(2) 立根小学校第3回学校運営協議会の熟議

テーマ「立根町の子どもたちに『誇り』と『夢』を育むために、

私たちにできることは」

- ・創立150周年記念誌を見ると、夢を実現するための力を育むためには、学校での各教科の勉強、経験、体験が大切だということがよく分かる。やってみて、やらせてみて、失敗させるという体験をさせる時数のゆとりが今の時代にはない。失敗させられないという先生方の事情も分かる。しかし、その中で、子どもに任せるという勇気と時間と熱意が必要。
- ・誇りをもたせるためには、子ども達に自信をもたせることが必要。そのためには、周りの人がその子を注意深く見守り、できたら褒めなければならない。その子の目標をよく理解し、目標達成する過程を見守る多くの目も必要だと思う。「夢」をもつためには、こんな人になりたいという出会いと夢中になれるような好きなことを見つけることも大切。私たちにできることは、そのきっかけをつくること。多種多様な環境、人との出会いも夢をもつためには必要だと考える。
- ・まなびフェスト自己肯定感の目標は85%だが、県では80%。この数値は、児童の実態を考慮して設定した。来年度は、「かかわり」を大切にしながら、目標達成させるための教育課程を実現していきたい。

4 令和5年度のまとめ

【成 果】

- ・学校のニーズに合わせた活動が昨年度よりもさらに増加、充実した。猪川小学校では復興教育の年間計画に「防災倉庫の管理者や避難所の生活を経験した方からお話をいただく」「地域の方と防災グッズをつくる」等の活動をあらかじめ位置づけた。東朋中学校では避難所運営体験を実際に地域の方々に協力をいただいて実施した。学校と地域が1つとなって学校、地域のために活動する機会が増えてきたことは大きな成果である。

【課 題】

- ・今年度は全ての学校が2回以上学校運営協議会を開催することが出来た。複数回開催することで、年度当初に学校経営方針を確認し、それを受けての評価について具体的に意見交流ができた学校が多くあった。来年度は次の協議会委員の円滑な選任、より持続可能な活動はどうあるべきかというより先を見据えてた協議会、活動の在り方の検討の必要がある。
- ・第一中学校では地域の活動に中学生が積極的に参加するようになってきた。このように1つの場面での活動だけでなく、その活動後も自分の住む地域に興味を持ち、関わろうとする児童生徒を育てていくことが課題である。

家族との時間に夢中

越喜来小で祖父母交流会

大船渡

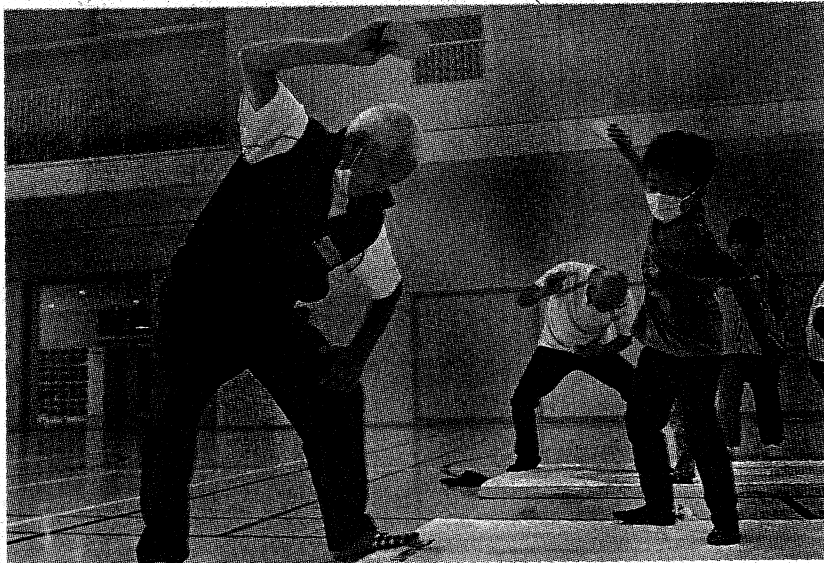
大船渡市立越喜来小学校

(鹿糠康校長、児童72人)

は26日、同校で祖父母交流会を開いた。児童らが、学校を訪れた祖父母や家族らと遊びやもの作りに没頭し、家族と過ごすひとときを楽しんだ。

家族間の交流を深める機会にしようと開催。1、2年生は昔遊び、3、4年生はゴム鉄砲作り、5、6年生は消しゴムはんこ作りをそれぞれ体験し、祖父母や家族のほか、日頃から学校運営に協力している地域住民らがサポート役として参加した。

1、2年生は、けん玉やあやとり、ビー玉・おはじき、めんこ、お手玉、コマ回しをローテーションでそれぞれ体験。祖父母らにうまく遊ぶコツを教わりながら一生懸命挑戦し、成功すると顔を見合わせて喜んだ。



祖父母や家族らと昔遊びなどを体験する越喜来小の児童ら（電子新聞に別写真あり）

3、4年生は、輪ゴムと割り箸で鉄砲を作り、輪ゴムを飛ばして的確を狙った。5、6年生は、彫刻刀などを使いながら消しゴムに文

字やマークを彫り、紙に押しつけてその出来栄を見比べた。元気に体を動かしたり、作業に夢中になる児童の姿に、参加した家族らも笑顔を広げた。

昔遊びを体験した川畑海晴さん（2年）は「おはじきとビー玉とおはじきで遊んだのが楽しかった。またやりたい」と話し、祖母の恵美子さん（72）は「昔を思い出して懐かしい気持ちになった。孫たちの学校での姿を見ることができて良かった」と目を細めていた。

A5-9-27

東海新報

命を守る行動学ぶ

綾里小で 消防署、団員が協力 防災訓練

大船渡

大船渡市立綾里小学校（渡辺信子校長、児童75人）は2日、同校で防災訓練を行った。地元の大船渡消防署三陸分署綾里分遣所（千葉善博所長）に加え、市消防団第10分団（佐々木淳分団長）が協力。全校児童が各種体験や講話を通じて、災害への備えと命を守る行動の大切さを肌で学ぶ機会とした。

日頃から津波避難訓練などに取り組む同校。昨年度からは、同分遣所の消防署員を講師に全校で防災訓練を実施しており、本年度は初めて市消防団も協力した。

同日は、署、団員約30人が講師となり▽防災講話▽119番通報訓練▽濃煙体験▽展示訓練——を実施。

このうち、校庭で行われた展示訓練では、団員らが迅速、確実かつ安全に行動するこころをこころとこころ



消防署、団員の指導で放水訓練を体験する綾里小の児童（電子新聞に別写真あり）

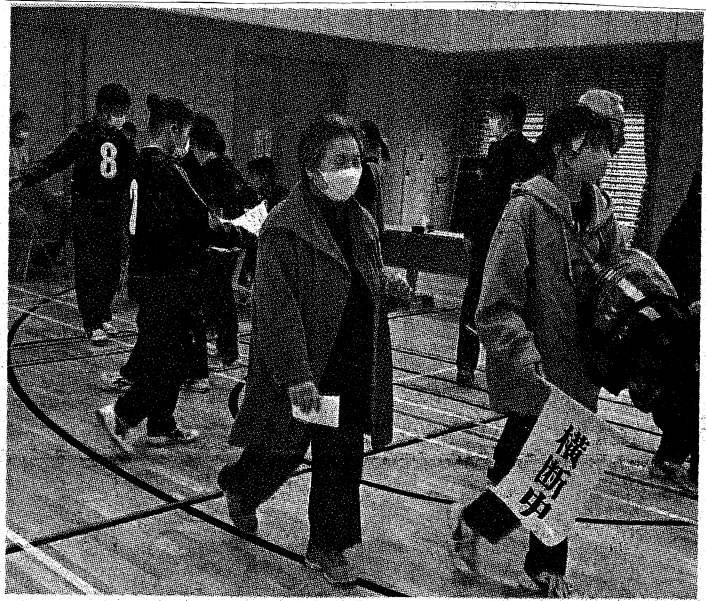
用機械器具の取り扱いや操作を行う消防操法を実演。プールから水を引き、素早くホースを伸ばして陣形を整え、校舎に向けて放水すると、見学した児童らが歓声を上げた。児童らはこの

あと、署、団員の指導で放水訓練も体験し、的を狙いながらホースの重さや水の威力を体感した。このほか、消防車や救急車の見学、防火衣の試着体験なども行われ、火災現場

の最前線で活動する署員らの仕事にも理解を深めた。訓練に参加した団員には児童の父親たちもおり、佐々木分団長（52）は「皆さんが大きくなって地元に残るときには、消防団員への気持ちも持っていてほしい」と呼びかけた。

炭釜芽依さん（6年）は「思ったよりもホースの水圧がすごくて、的を狙うのが難しかった。とても力がなくて、消防の人たちが大変な仕事をしていることが分かった」と話した。

RS-11.3 東海新報



避難者役の地域住民を案内する東朋中の生徒⑥

地域住民交えて 避難所運営体験

東朋中

大船渡市赤崎町の東朋中
学校（佐藤学校長、生徒1

19人）は同日、同校で避難所運営体験を行った。3年生43人が主体となつて対応したほか、1、2年生に加えて赤崎、綾里地区の地域住民らが避難者役で協力し、有事における具体的な動きを確認した。

避難所運営体験は、統合前の赤崎中時代から続けられているもの。本年度は、

県地域防災サポーターの塚本清孝さんを講師に招き、地域住民の協力も得て実施した。

体験は、マグニチュード9・0の巨大地震と5級の津波が発生し、市指定の第2避難所となっている同校へ避難所の立ち上げ要請があったとの想定で実施。1回目は全校で行い、2回目は住民らも避難者役で参加した。

3年生は▽本部▽受付▽案内▽保健衛生▽物資の各係に分かれ、次々に訪れる避難者を誘導。受付時に体調や考慮すべき点を確

認し、妊婦や要配慮者、車いす、ペットなどご分け、各スペースに案内した。

物資係は飲み物や毛布などを必要な人に配り、保健衛生係はけが人を担架で運んだり、体調不良の人への対応にあたった。本部では避難所全体の状況を把握しながら、避難者の様子や各係の動きに合わせて指示を送り、重要な情報をアナウンスするなどして円滑な運営に努めた。

塚本さんは「運営にあたった生徒の皆さんは、私の想像を超えてよく動いていて、避難所運営体験に毎年

取り組んでいる知恵がついていると感じ、私も非常に勉強になった」と講評した。保健衛生係長を務めた金野陽由さん（3年）は「避難者の体調が悪化する前に素早く対応することを心がけ、本部やほかの係とも連携しながら協力して進められた。もし避難所を運営する状況になったら、この体験を生かして一人一人を大切にしたい」と話していた。

2015.11.29 東海新報

家庭科授業に地域の手

大船渡市立日頃市小学校(高橋多鶴子校長、児童60人)で5日、同校学校運営協議会による学習支援活動が行われ、地域住民4人が家庭科の授業に携わった。ミシンの扱いを丁寧にサポートし、エプロン作りに取り組む児童たちを支えた。

(新沼麻波)

学校運営協議会は、保護者や地域住民など、学校に関わる幅広い関係者が委員となり、学校運営や地域との連携活動に、地域の声を積極的に生かすことで、運営の改善や児童、生徒の健全育成、学びの充実を図ろうという仕組み。

日頃市小学校では本年度、地域住民を講師として招き、地元の先人に関する授業や、糸のこぎりの使い方、昔遊びの体験、家庭科の指導補助などを実施している。

今回の活動は、5年生13人の家庭科を対象に行われた。地域住民は、折り返したエプロンの縁を真っすぐ

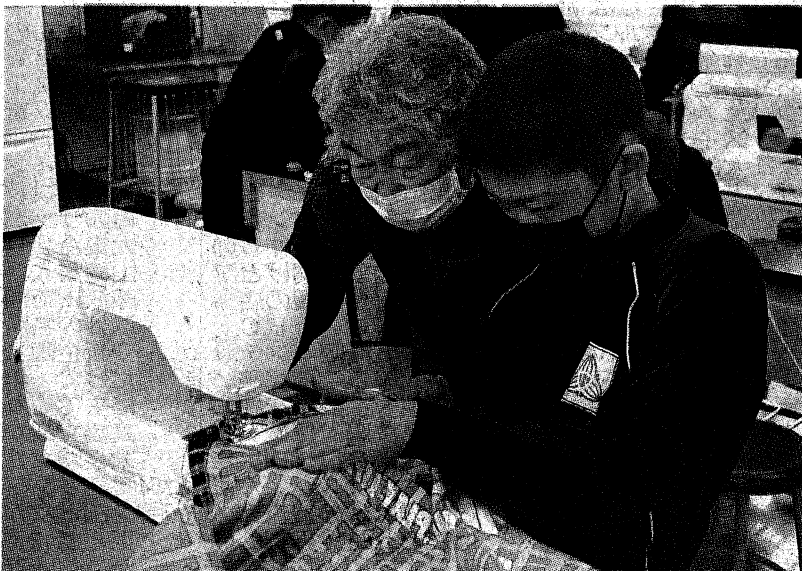
にミシンで縫う作業に挑戦する児童をサポート。初めてミシンを使う児童もあり、基本的な使い方から丁寧に教えた。

慣れないミシンの扱いに四苦八苦していた児童も、地域住民の熱心なサポートを受け、無事にエプロンを完成させた。佐藤凛さんは、「エプロンはうまくできたと思う。ミシンを使うとき早く縫ってもきれいにできるよ」に教えてくれた。全部分かりやすかった」と、はにかんだ。

活動に参加した一人で、同協議会の地域コーディネーターを務める上関みささん(71)は、「家庭科の補

住民がエプロン作り応援

日頃市小・学校運営協活動 ミシンの扱い丁寧に指導



地域住民のサポートを受けながらミシンを扱う児童(電子新聞に別写真あり)

助は2年目の取り組み。近所の方々はミシンのプロで、「学校からミシンの指導補助のお願いが来ている」と声を掛けられ、快く引き受けてくれた」と住民の協力に感謝する。

今回の活動については、さみや針を使うため、安全面に気を付けた。皆さんブ口なので、洋裁の細かい部分にも気を使って指導している様子だった」と話していた。